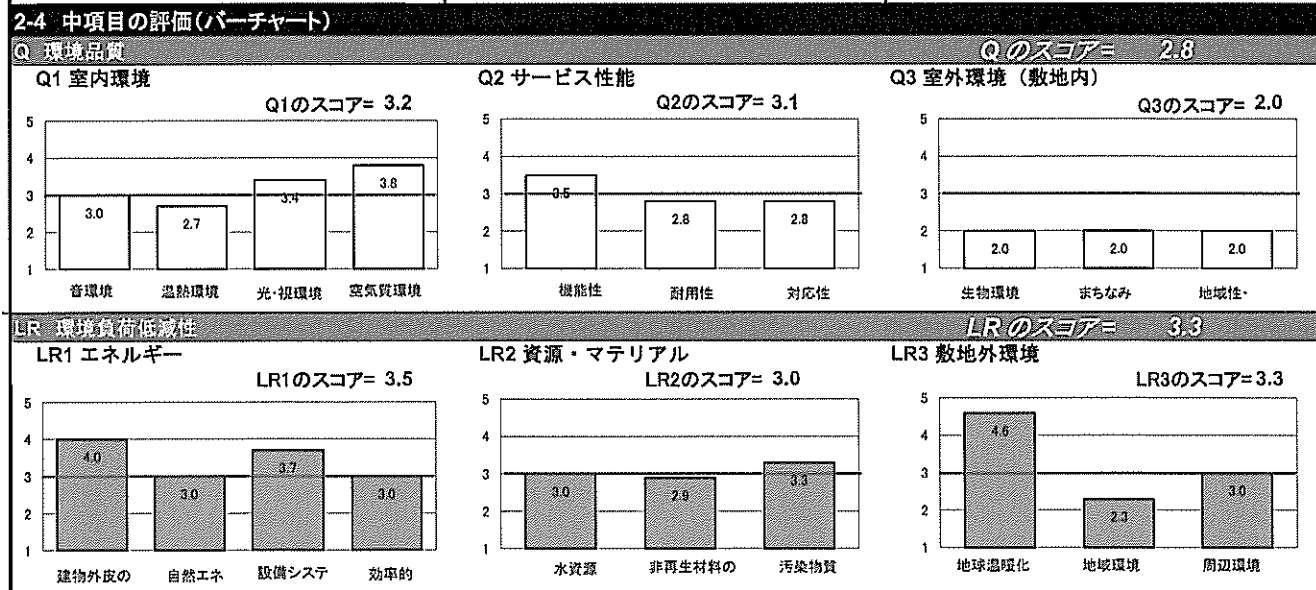
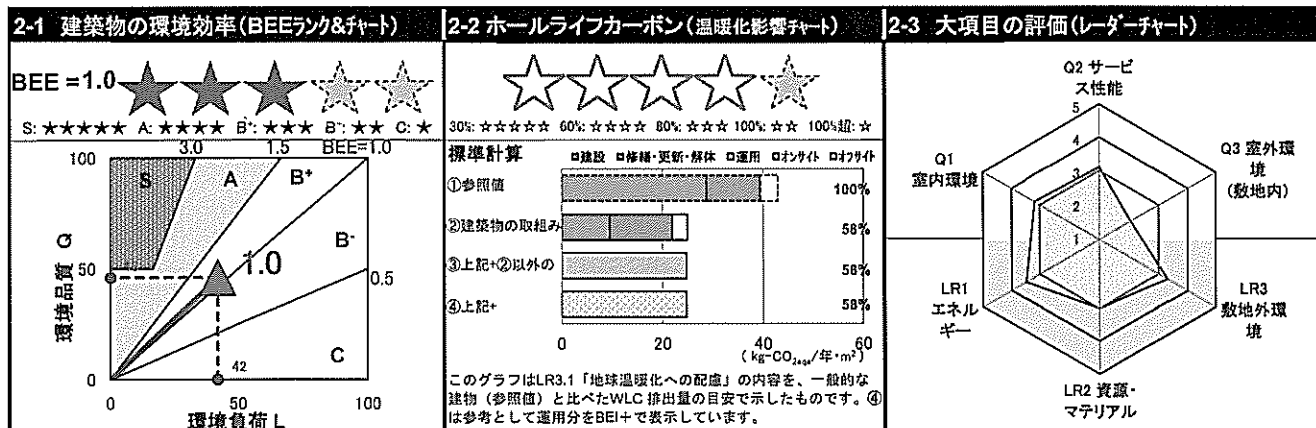


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)長岡京市神足一丁目計画	階数	地上6F	
建設地	京都府長岡京市神足一丁目202.210	構造	RC造	
用途地域	都市計画区域内、市街化区域、準防	平均居住人員	130 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2026年4月10日	
敷地面積	1,887 m ²	作成者	東洋設計事務所 齋藤 篤史	
建築面積	986 m ²	確認日	2026年4月10日	
延床面積	4,497 m ²	確認者	東洋設計事務所 齋藤 篤史	



3 設計上の配慮事項		
総合	建物利用者の快適な生活環境を維持するため断熱性能、遮音性を高め、安全性の面からはF★★★★の内装材を全面的に使用している。また耐用年数の高い建材の採用や省エネ機器、リサイクル材を採用し資源の有効利用にも心がけている。	その他 特になし
Q1 室内環境	断熱等性能等級 等級5の取得や、F★★★★の建材を使用するなど、室内の温熱環境やシックハウス対策に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内にできる限り緑地を設けて良好な温熱環境に心がけている。
LR1 エネルギー	断熱等性能等級 等級5を取得、LED照明などで省エネに配慮している。	LR3 敷地外環境 長寿命の躯体や高効率な設備により、ライフサイクルCO2の排出を抑制し、地球温暖化に配慮をしている。また、屋外広告物照明の設置は行わないなど、敷地外環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

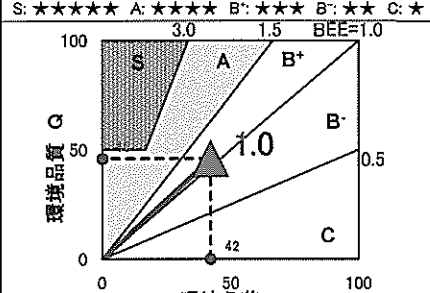
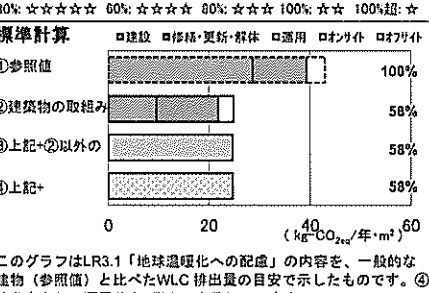
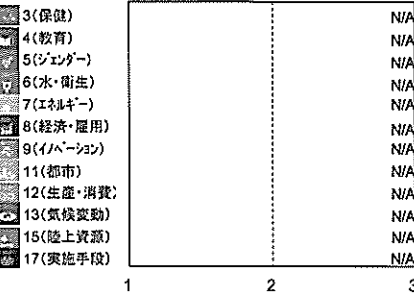
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

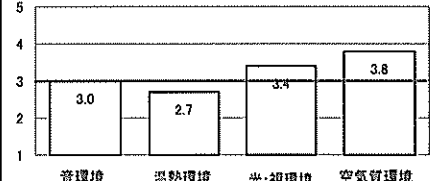
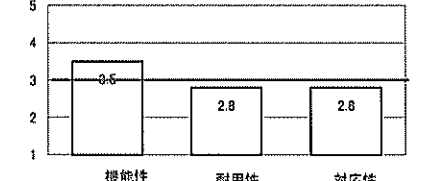
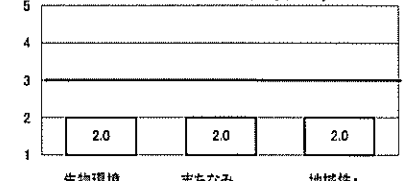
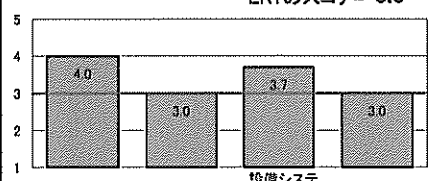
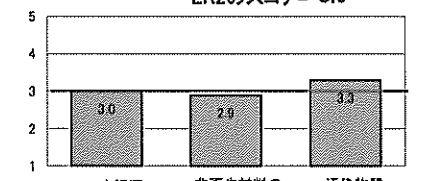
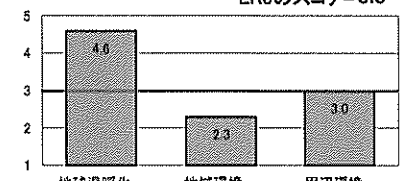
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)長岡京市神足一丁目計画	階数		
建設地	京都府長岡京市神足一丁目202.21	構造		
用途地域	都市計画区域内、市街化区域、準防	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,887 m ²	作成者		
建築面積	986 m ²	確認日	東洋設計事務所 齋藤 篤史	
延床面積	4,497 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果 (レーダーチャート)
BEE = 1.0 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 	標準計算 30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+  このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。	 3(保健) N/A 4(教育) N/A 5(ジェンダー) N/A 6(水・衛生) N/A 7(エネルギー) N/A 8(経済・雇用) N/A 9(イノベーション) N/A 11(都市) N/A 12(生産・消費) N/A 13(気候変動) N/A 15(陸上資源) N/A 17(実施手段) N/A * SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質	Q のスコア = 2.8	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.2	Q2のスコア = 3.1	Q3のスコア = 2.0
 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	 機能性 耐用性 対応性	 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.3	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.5	LR2のスコア = 3.0	LR3のスコア = 3.3
 建物外皮の 自然エネ 設備システム効率化 効率的	 水資源 非再生材の使用削減 汚染物質回避	 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
建物利用者の快適な生活環境を維持するため断熱性能、遮音性を高め、安全性の面からはF★★★★の内装材を全面的に使用している。また耐用年数の高い建材の採用や省エネ機器、リサイクル材を採用し資源の有効利用にも心がけている。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
断熱等性能等級 等級5の取得や、F★★★★の建材を使用するなど、室内の温熱環境やシックハウス対策に配慮している。	劣化対策等級 等級3、更新必要間隔の長い給排水配管等で建物の耐用年数に配慮している	敷地内にできる限り緑地を設けて良好な温熱環境に心がけている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱等性能等級 等級5を取得、LED照明などで省エネに配慮している。	ノンフロン断熱材の採用やリサイクル材を使用し、資源の有効利用を心がけている。	長寿命の躯体や高効率な設備により、ライフサイクルCO2の排出を抑制し、地球温暖化に配慮をしている。また、屋外広告物照明の設置は行わないなど、敷地外環境に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■ 評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される